

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57—140384

⑪ Int. Cl.³

B 65 D 85/72

3/06

21/02

51/18

77/08

77/30

識別記号

庁内整理番号

7312—3E

6862—3E

6564—3E

6862—3E

7909—3E

7909—3E

⑬ 公開 昭和57年(1982)9月2日

審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ ヨーグルト等の容器

⑮ 実 願 昭56—25466

⑯ 出 願 昭56(1981)2月25日

⑰ 考 案 者 星野雄二

東村山市諏訪町2—12—3

⑱ 考 案 者 持丸留久

横浜市鶴見区岸谷1—20—56

⑲ 出 願 人 明治乳業株式会社

東京都中央区京橋2丁目3番6号

⑳ 出 願 人 大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町1丁目12番地

㉑ 代 理 人 弁理士 渡辺勤

㉒ 実用新案登録請求の範囲

内側にポリエチレンを有する加工紙をもつて、断面が矩形状で隅角部がスプーンを使用できる程度の円弧状に、かつ口部にはフランジを、また底部は上底に形成した容器本体と、紙とパチメント紙とポリエチレンとの積層紙をもつて、容器本体の口部フランジを含む大きさにして、隅角部にピール部を突出した形状に形成した内蓋と、全体が断面凸形のプラスチック成形体であつて、その上面には、容器本体の底縁端部の内側に嵌合する大きさの平凸面部を有し、側周縁下部には、内蓋のピール部と嵌合するピール嵌合部の位置及び容器本体の口部フランジの隅角部が嵌合する他の隅角部の位置に、内方に向う係合突条部を設けた外蓋とからなるヨーグルト等の容器。

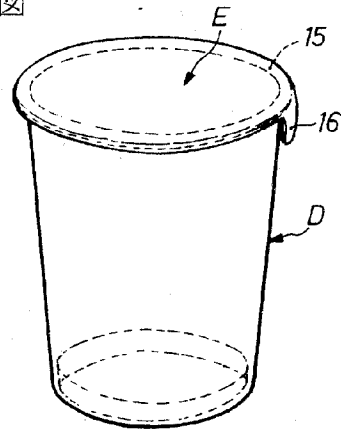
図面の簡単な説明

第1図乃至第5図は、従来品に関するもので、

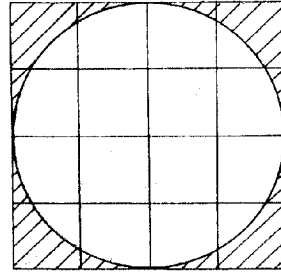
第1図は容器本体を内蓋でシールした斜視図、第2図は単位面積当りの占有率についての説明図、第3図は外蓋の平面図、第4図は内容物を充填シールした容器を積重ねた場合の断面図、第5図は別の積重ね状態の断面図、第6図乃至第9図は、本考案品に関するもので、第6図は容器本体を内蓋でシールした場合の斜視図、第7図は単位面積当りの占有率についての説明図、第8図は外蓋の平面図、第9図は内容物を充填シールした容器を積重ねた場合の断面図である。

A……容器本体、B……内蓋、C……外蓋、1……胴部、2……口部、3……フランジ、6, 6, 6, 6……隅角部、7……周縁端部、8……ピール部、9……上面部、10……平凸面部、11……側周縁部、12……ピール嵌合部、13, 13', 13'', 13'''……係合突条部、14……砂糖袋。

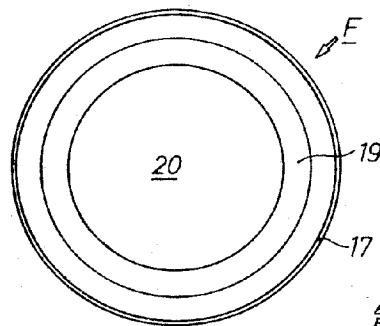
第1図



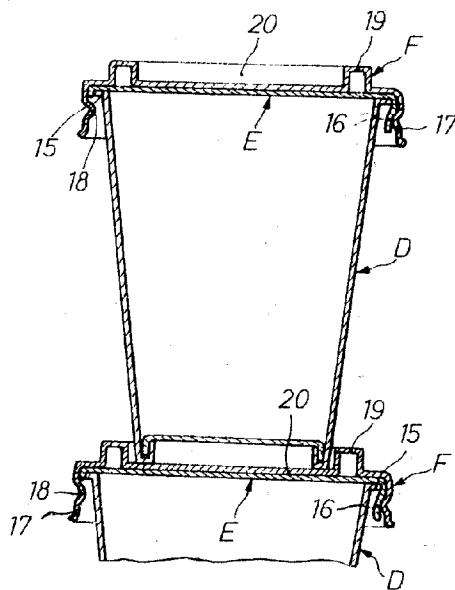
第2図



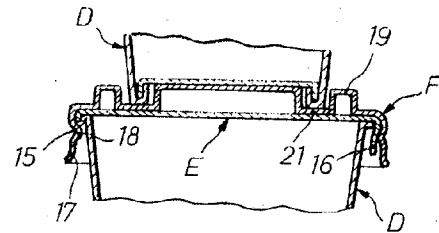
第3図



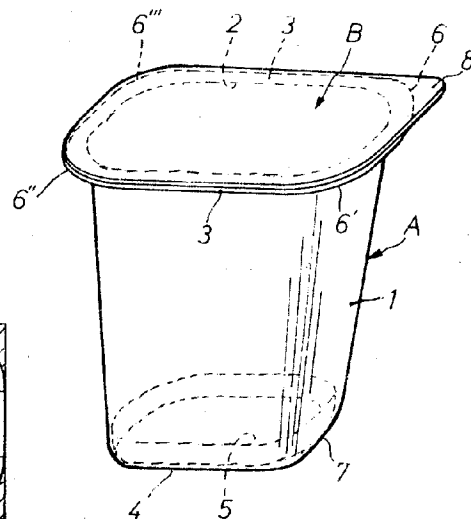
第4図



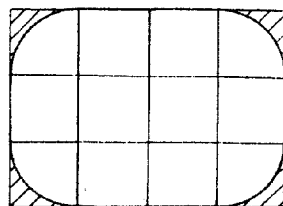
第5図



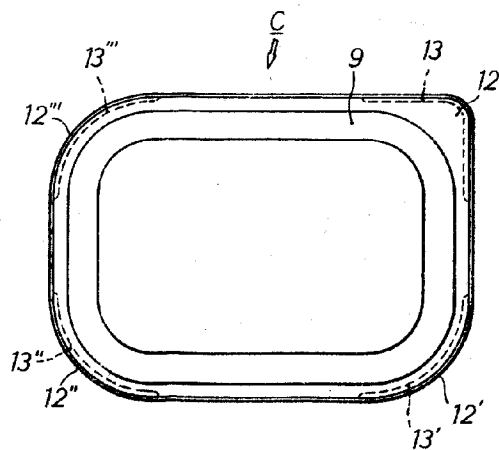
第6図



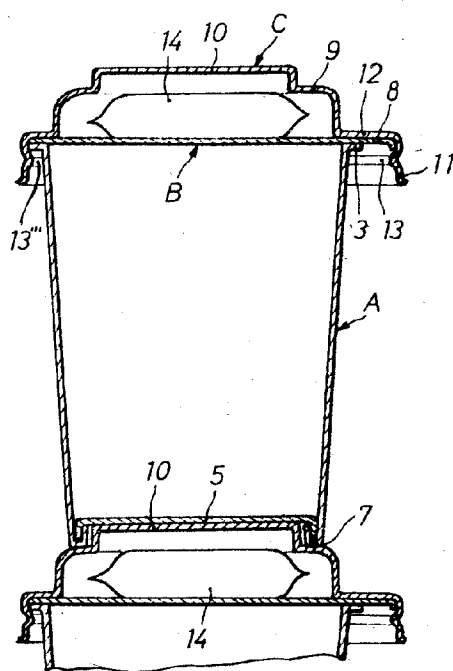
第7図



第8図



第9図





実用新案登録願

適

(4,000円)

昭和56年2月25日

特許庁長官 島田 春樹 殿

1. 考案の名称 ヨーグルト等の容器

2. 考案者

住所 東京都東村山市諏訪町2-12-3
氏名 星 野 雄 二 (外1名)

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都中央区京橋2-3-6
氏名 明治乳業株式会社
(国籍) 代表者 藤 見 敬 護

4. 代理人 T 102

住所 東京都千代田区六番町7番地 下条ビル
氏名 (7070) 弁理士 渡 辺 勤
電話 (264) 4369番

5. 添付書類の目録 特許庁

- (1) 明細書 56 2.26 1 通
(2) 図面 1 通
(3) 願書副本 1 通
(4) 委任状 2 通

追って補充する。

813

56 025466 方式
審 査

140384



明 細 書

1. 考案の名称

ヨーグルト等の容器

2. 実用新案登録請求の範囲

内側にポリエチレンを有する加工紙をもつて、断面が矩形状で隅角部がスプーンを使用できる程度の円弧状に、かつ口部にはフランジを、また底部は上底に形成した容器本体と、紙とパーチメント紙とポリエチレンとの積層紙をもつて、容器本体の口部フランジを含む大きさにして、隅角部にピール部を突出した形状に形成した内蓋と、全体が断面凸形のプラスチック成形体であつて、その上面には、容器本体の底縁端部の内側に嵌合する大きさの平凸面部を有し、側縁下部には、内蓋のピール部と嵌合するピール嵌合部の位置及び容器本体の口部フランジの隅角部が嵌合する他の隅角部の位置に、内方に向う係合突条部を設けた外蓋とからなるヨーグルト等の容器。

3. 考案の詳細な説明

本考案は、容器本体、内蓋、外蓋とからなるヨーグルト等の容器に関するものである。

従来、この種の容器としては、容器本体に、その断面が円形の紙カップが使用され、かつ内蓋としては、アルミニウムとポリエチレンとホットメルトの積層材が使用されている。そして、この内蓋の周縁部は、シール後において、容器本体の口部フランジに巻き込まれており、また外蓋は、容器の積重ねを考慮して、その上面に、容器本体の下底周縁端部が嵌合するための凹部、あるいは凹溝部が設けられている。

しかし、このような容器では、次のような欠点があつた。

すなわち、容器本体が断面円形であるため、単位面積当りの占有率（断面）が78.5%と少なく、したがって包装の際の箱詰において無駄な空間部が多く、またシール用の内蓋は、その周縁部が容器本体の口部フランジ部に巻き込まれており、またビール部があつても、これと同様に巻き込まれているため、開封が面倒であり、さら



に、外蓋の上面に設けた容器本体の下底周縁端部の嵌合部は、凹部であつたり凹溝部であるために、店頭において陳列販売する際などに、容器がぬれた場合、この部分に水が溜るおそれがあつた。

本考案は、このような点に鑑みて案出されたもので、容器本体、内蓋、外蓋からなるものである。

容器本体は、内側にポリエチレンを有する加工紙をもつて、その断面が矩形状で、隅角部がスプーンを使用することができる程度の円弧状に形成されており、口部にはフランジがあり、また底部は上底となつている。

内蓋は、紙、パーチメント紙、ポリエチレンの積層紙をもつて形成されていて、容器本体の口部フランジ部を含めた大きさであり、その隅角部にはピール部が突設されている。

外蓋は、プラスチック成形体であつて、全体が断面凸形をなしている。上面には、容器本体の下底の周縁端部の内側に嵌合する大きさの平

凸面部がある。すなわち、上面部には、水等が溜るような凹部は存在していない。

また側周縁の下部には、内蓋のピール部と嵌合するピール嵌合部の位置及び容器本体の口部フランチの隅角部が嵌合する他の隅角部の位置に、内方に向う係合突条部が設けられている。

そして、これらの容器本体、内蓋、外蓋は、容器本体に内容物であるヨーグルト等を充填後、内蓋でシールし、外蓋を嵌合して4隅角の係合突条部で係合して使用するものである。この際、内蓋と外蓋との間に形成される空間部には、しおり、砂糖袋等を納入することができる。

以下、図面について説明する。

本考案は、第6図乃至第9図に示すように容器本体(A)、内蓋(B)、外蓋(C)の3者からなるものである。

容器本体(A)は、紙に、ポリエチレン、ポリエステル、アルミニウム等の1つあるいは複数を積層し、最内面をポリエチレンとした用紙を使用し、断面が矩形状で、隅角部がスプーンを使用

することができる程度の円弧状に形成された胴部(1)と、口部(2)と底部(4)とからなるもので、口部(2)にはフランジ(3)を、また底部(4)には上底(5)がある。(6)(6')(6'')(6'')はフランジ(3)の隅角部、(7)は周縁端部である。なお、単位面積当りの占有率(断面)は、第7図の場合は92.8%である。

内蓋(B)は、紙とパーチメント紙とポリエチレンとの積層紙をもつて、容器本体(A)の口部(2)のフランジ(3)を含めた大きさに形成し、その隅角部には、ビール部(8)が突設されている。このビール部(8)は必ずしも1つとは限らない。

外蓋(C)は、プラスチック成形体であつて、全体は断面凸形に形成されている。上面部(9)には、容器本体(A)の底部(5)の周縁端部(7)の内側に嵌合する大きさの平凸面部(10)が設けられており、側周縁部(11)には、内蓋(B)のビール部(8)と嵌合する位置にビール嵌合部(12)が突設されており、この位置及び容器本体(A)のフランジ(3)の隅角部(6)(6')(6'')(6'')が嵌合する他の隅角部(13)(13')(13'')(13'')の位置には内方に向う係合突状部(14)(14')(14'')(14'')が設けられている。

そして、この本考案の容器を使用するには、容器本体(A)に、内容物としてのヨーグルト、ジャム、アイスクリーム等を充填後、内蓋(B)でシールし、この11字加
要に応じて、しおり、砂糖等(C)をおいて外蓋(D)を嵌合する。この嵌合は、外蓋(D)の係合突条部(C)(C')(C'')をもつて、内蓋(B)のピール部(8)及び容器本体(A)のフランジ(8)の隅角部(8')(8'')(8'')に係合することによつて行われる。

困みに、従来のこの種の容器(第1図乃至第5図)は、容器本体(D)が断面円形であつて、単位面積当りの占有率(断面)は、78.5%(第2図)であり、内蓋(B)は、その周縁部が容器本体(D)のフランジ部(C)を巻き込むようにしてシールし、ピール部(C)も同様に巻き込まれる状態となつている。

このピール部(C)の巻き込みは、外蓋(D)の周側縁部(C)の下部に設けた内方に向う突条(C)と容器本体(D)のフランジ部(C)との係合によるものである。外蓋(D)は、その上面(C)に、容器本体(D)を積重ねるための凹部(C)、あるいは凹溝部(C)が設けられ

ている。

本考案は、以上のように、容器本体が断面矩形状にして、隅角部をスプーンが使用できる程度の円弧状に形成してあるから、箱詰にして包装し、輸送し、これを陳列販売する場合に、収能効率がよく、その上空間部があるから箱内より取出し易く、内蓋に、紙とパーチメント紙とポリエチレンとの積層紙を用いたもので、内側に面するパーチメント紙は、層内が衛生的であり、耐湿潤、耐酸性により、ヨーグルト等の収納に適し、開封する際には、このパーチメント紙の内層より剝離するから、密封性を有するにもかかわらず、開封し易いという特徴を有する。

しかも突設されたピール部は、外蓋のピール嵌合部のために折曲がることがないから、開封の際、摘み易く、パーチメント紙による易開封性と相俟つて、この内蓋は、シール部材としては適切なものである。

さらに、外蓋は、上面の平凸面部により容器を横重ねることができると共に、上面に凹部、又



は凹溝部がないから、店頭における陳列販売の場合に、水等でぬれても、この部分に水等が溜るおそれはない。

そして、全体の形状が矩形状をしているにもかかわらず、外蓋と容器本体との嵌合は、4隅角部において突条部で係合するから、確実に行なわれる。

また、内蓋と外蓋との間には、空間部が形成されているから、この部分に、しおり、砂糖袋等を収納することができる。

このように、本考案の容器は、ヨーグルトを始め、ジャム、アイスクリーム、その他同種の物の充填容器として適切な価値のあるものである。

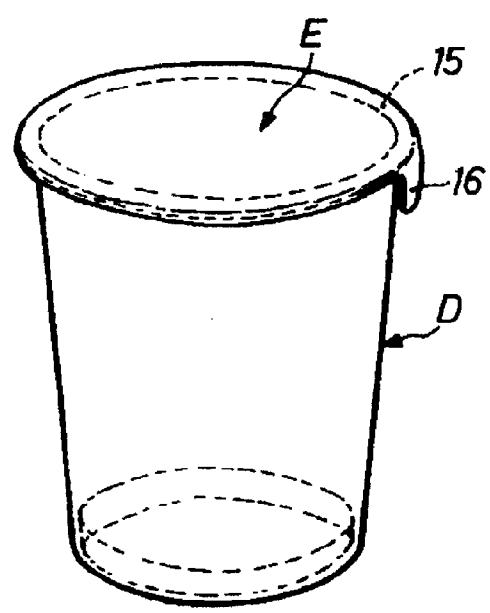
4. 図面の簡単な説明

第1図乃至第5図は、従来品に関するもので、第1図は容器本体を内蓋でシールした斜視図、第2図は単位面積当りの占有率に関する説明図、第3図は外蓋の平面図、第4図は内容物を充填シールした容器を横重ねた場合の断面図、第5図は別の横重ね状態の断面図、第6図乃至

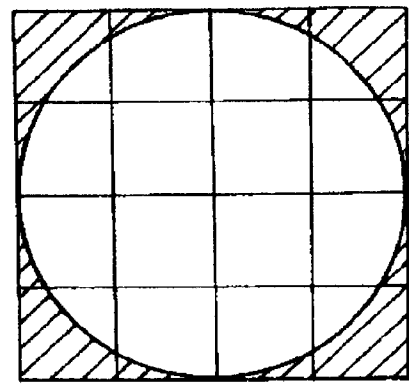
第 9 図は、本考案品に関するもので、第 6 図は
 容器本体を内蓋でシールした場合の斜視図、第
 7 図は単位面積当りの占有率に関する説明図、
 第 8 図は外蓋の平面図、第 9 図は内容物を充填
 シールした容器を積重ねた場合の断面図である。

- (A) 容器本体
- (B) 内 蓋
- (C) 外 蓋
- (1) 胴 部
- (2) 口 部
- (3) フ ラ ン ジ
- (6) (6) (6) (6) 隅 角 部
- (7) 周 縁 端 部
- (8) ビ ー ル 部
- (9) 上 面 部
- (10) 平 凸 面 部
- (11) 側 周 縁 部
- (12) ビ ー ル 接 合 部
- (13) (13) (13) (13) 係 合 突 条 部
- (14) 砂 糖 袋

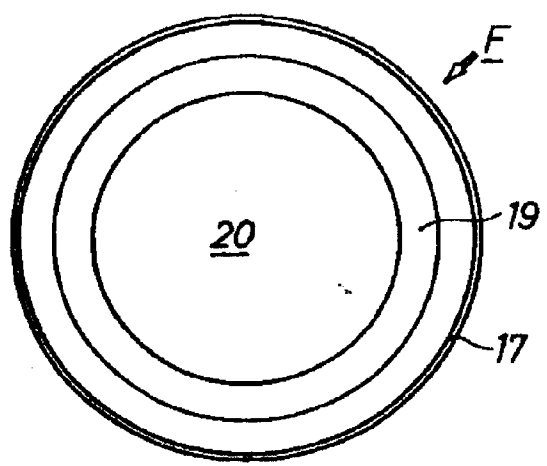
第 1 図



第 2 図



第 3 図

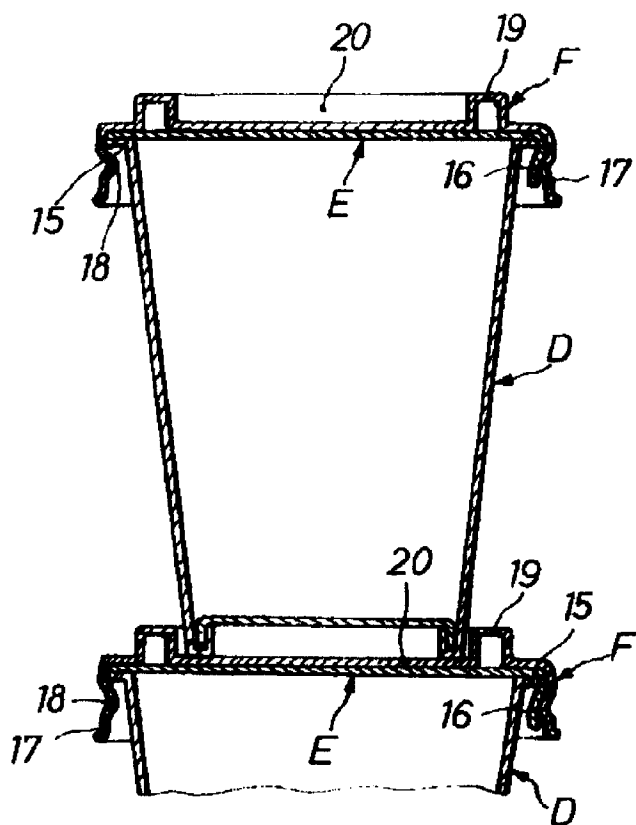


140384^{1/3}

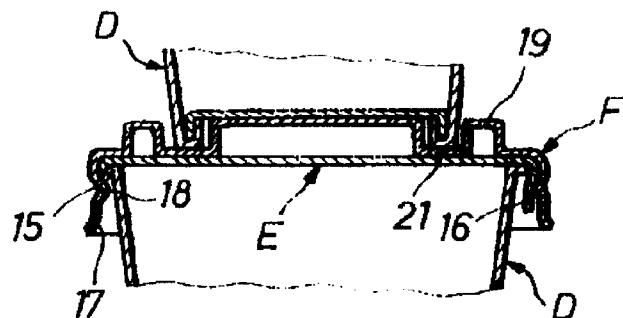
823

出願人 明治乳業株式会社
 代理人 渡 辺 (外 1 名) 勸

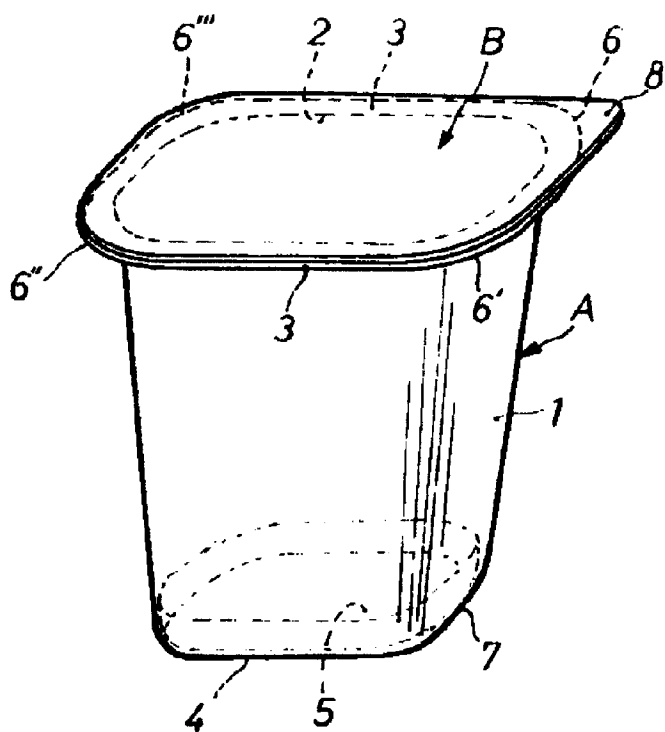
第 4 図



第 5 図



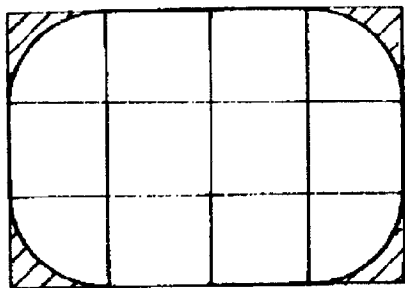
第 6 図



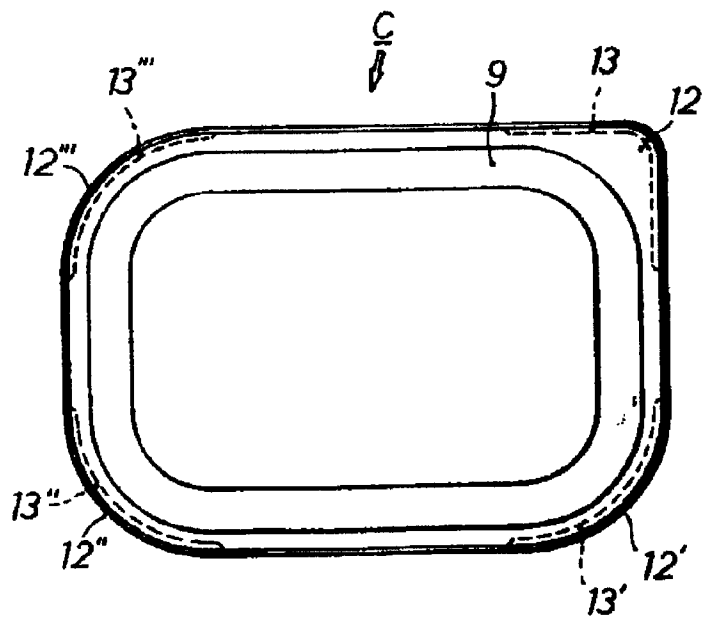
140384

出願人 明治孔菜株式会社
(外 1)
代理人 渡 辺 敏

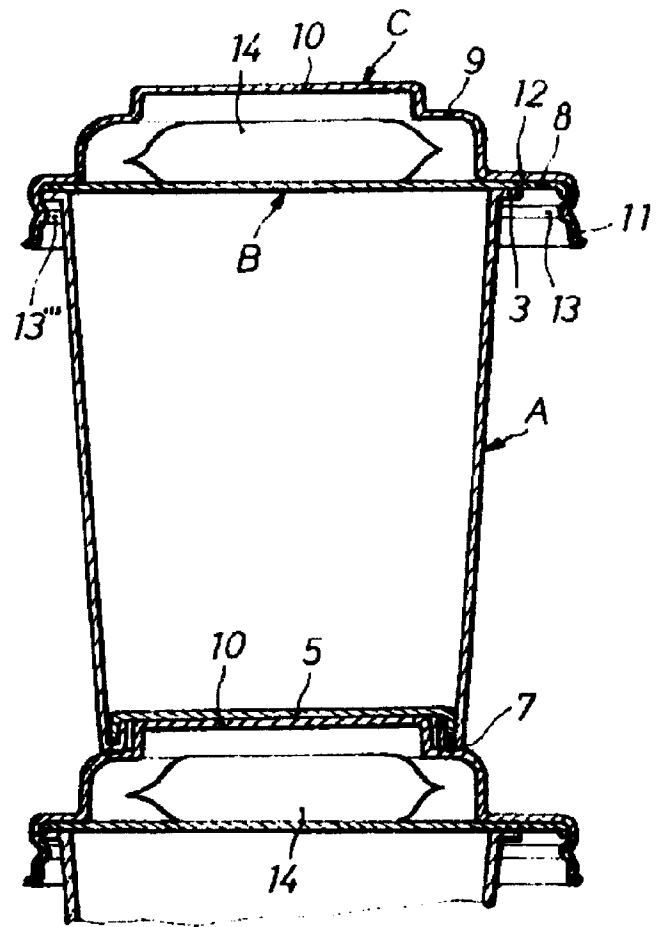
第 7 圖



第 8 圖



第 9 圖



出願人

明細孔系採式云社

代理人

渡 辺

6.
(外 1 名)
勳

6. 前記以外の考案者

ヨコハマ フルミ キレヤ
神奈川県横浜市鶴見区岸谷 1 — 20 — 56
セチ マル トノ ヒナ
持 丸 留 久

7. 前記以外の出願人

東京都新宿区市谷加賀町 1 — 12

(289) 大日本印刷株式会社

代表者 北 島 義 俊